

# 中国語教育学会会報

第6号(通巻31号) 2003年6月3日発行

下記事務局へのご連絡は郵便で

中国語教育学会  
東京都世田谷区桜上水3-25-40  
日本大学文理学部中文研究室内  
郵便振替口座 00110-1-191152

## 月例会に積極的参加を期待(1面例会案内)

## 学会誌第2号の来春発行に向け始動(4面)

本会の主たる活動は月例研究会である。前身の中国語教育協議会においてもセミナーや実践報告など、中国語教育の現場から問題を取り上げ、そして現場で活かすことのできる問題を例会のテーマとしてきた。今後もこの路線を歩みたい。会員に一層の関心と協力を求める意味で、

今年度第3回に当たる6月例会からは各大学に持ち回りで会場の提供、さらには運営をお願いすることとした。教育協議会の時期を合算すると98年度から計39回も月例会の会場を提供して下さった(財)国際文化フォーラムのご協力に対し心から感謝の意を表したい。

### 中国語教育学会2003年6月、7月例会のご案内

6月例会 日時: 6月14日(土) 14:00~ [参加費不要・事前申し込み不要]

会場: 青山学院大学渋谷キャンパス(地下鉄表参道駅から徒歩7、8分)  
ガウチャーホール(正門から100mほど入ったところの10数階の建物)  
3階15309教室

人と題: ◎遠藤光暁(青山学院大学)「中国語の強さアクセントの音声的・文法的性質と諸教科書・辞書類における扱い」

◎車麗(慶應義塾大学非常勤)「日本人の中国語発音傾向に関する調査」

◎参加者によるディスカッション「LL・CALL教室をいかに活用するか」

7月例会 日時: 7月12日(土) 14:00~ [参加費不要・事前申し込み不要]

会場: 文教大学(地下鉄日比谷線直通、東武伊勢崎線北越谷駅から徒歩約10分)  
8号館8401教室 →北越谷駅から文教大学までの道順は下の図をご覧ください。

人と題: ◎山田忠司(文教大学)「中国語教育に関する若干の私見」

◎野間 晃(北海道文教大学)「高等学校における中国語教育の実践について」

◎白井啓介(文教大学)「漢語中級閲読教材構思」

※月例会については、年間8回(4、5、6、7、9、10、11、12の各月)の開催を予定しています。今年度後半の9月以降の会場提供につき各大学からのお申し出を歓迎します。ぜひご協力ください。  
※月例会で報告を希望する会員は事務局にご連絡ください。中国語あるいは中国語教育に関する研究成果や、教室での実践報告、また例会参加者の討論を誘い出す話題提供も歓迎します。



## 中国語教育学会 5月例会 記録

去る5月10日に国際文化フォーラム会議室で5月例会が開かれた。以下に孫玄齡氏の報告原稿と松本洋子氏の報告概要を掲載する。

### 关于发音指导的一些方法与技巧

丽泽大学 孙 玄齡

发音是一种技能。这种技能和我们用筷子、写字一样，需要经过千万次地练习之后，才能够不用考虑和熟练自如地使用。这种技能不是在手上，而是在舌头和口腔肌肉的运动上。因此，学外语的特点是在已经熟悉了舌头及口腔肌肉运动习惯上，又要学习和养成一种新的运动习惯。改变自己原有的发音方式，等于学习一种新的技能，所以会困难一些。如果能清楚认识到这种在技能上的特点和特殊性，对于学习者和指导者来说，都是有帮助的。

既然发音是一种技能，那么就应该有相应的练习指导方法。反复地练习虽然是基本的要求，但是，教师有好的指导方法，才能有效地指导练习，能更快地使学生们发音进步。在这一点上，好像是学乐器一样，老师的指导方法如何，直接会体现到学生的学习结果上。

以下，简单地介绍一些自己在教室中常使用的发音指导方法，供大家参考。

#### 1. 随时观察学生发音时的口型

除了让学生观察教师口型，检讨自己的以外，教师在学生们练习发音时也要随时注意观察学生的口型。在上集体课的时候，人数众多，不可能听清或分辨出每个人的发音来。在这样的情况下，教师观察学生的口型是一种辨别发音正误的有效方法。也是一种以眼代耳发现错误的方法。

汉语发音时口型的变化比较大，一般很容易能分辨清楚圆唇和不圆唇的区别。即使距离学生很远，也能大概看清口型的状态。特别是在韵母中有 u、ü 以及 o 的时候，如果没有较圆唇口型，肯定是发不好这个音的。如：“学校”的“学”，如果没有圆唇，那么，说出的一定是 Xié 而不是 xué；“最好”的“最”，如果没有圆唇，他一定说的是 zèi 而不是 zuì。

另外，从相反的角度上来看，如果是不圆唇的韵母，如 i、或是 zi、ci、si 等韵母时，学生的嘴唇如果有圆唇的表现，那么，就一定是在发音上有问题。如“孔子”的“子”，如果学生的嘴唇有圆唇的样子，那发的就是 zù 了，而不是 zǐ。

口型的变化在念单音节和连读时有些差别，但是，无论说多快也还是能看清口型的一些基本变化。所以，很好地观察学生们的口型，特别是在人数众多的情况下，是一种有效指导方法。发现错误可以立刻指出，或叫学生单念，纠正其错误的发音。

#### 2. 随时注意比较

这里的比较，主要是指日语发音和汉语发音的比较。

因为我们的学生不是儿童，他们都是已经掌握了自己母语的成年人，所以，要特别向他们提醒中日语发音部位的不同。总的来说，说汉语时舌头的运动激烈，范围大，而日语温和，运动范围小。另外，随时提醒学生注意比较日中发音的区别，不能以日语的发音代替汉语。对于和日语发音近似的音，比如 u、f，一定要指出它与汉语的 u、f 有相当大的区别。教师要反复示范，使学生在头脑里有了深深的印象才行。

母语影响的存在是不可避免的，但是，如果能很好地利用它，使它总处于被比较之中的话，并不是一件不好的事，这样一来，学生们就能有意识地避免日语发音的影响，正确发出汉语的语音来。

#### 3. 听辨、分析和引导

对于一些音素的区别，有的同学不只发不准，而且也听不准。对此，只是讲道理是绝对

不够的,还需要进行难点的听辨练习,使学生从听感上把各个音素区别开来。也就是说,要想办法启发学生们的听觉功能。

如:前鼻音<sub>n</sub>和后鼻音<sub>ng</sub>,若是在听辨时分不清,那在发音的时候就困难了。所以,教师要反复地进行示范,直到学生从听感上把握住了发音的特点和音色上的差别。实际上,有了基础的辨音能力之后,才可以发出正确的音来。也可以说,在学习发音时,耳比口更重要。

有些音素如单独发音困难,但是用在复合音或在音节中发出时是不大难的。为了练习这些单纯音素,可以将复合音或音节进行分析,然后引导着练习发音。如念翘舌音,可用“sh i”开始,先发气,拖长,之后声带震动发音;\_i(舌尖后元音)发准后,zhi、chi、shi、ri就只是个如何开始的事情了。o可以从duo(多)中分析出来,\_n可以从an(安)中分析出来,\_ng可以从xing(香)中分析出来。如此等等,可以找出很多的例字来。

用另外的音素、音节配合帮衬,促成某个声、韵、调的准确发音。如“新年”xī nni ón,“温暖”wē n nuǎ n,借“连音”、“顺同化”的道理发好鼻音韵母。关于这些方法,在许多文章中已有仔细的阐述,可以参考。

#### 4. 充分运用手势辅助发音

在课堂教学时,教师可以借助手势指导发音练习。学生看着老师手的姿态,控制调节自己舌头的运动,寻找正确的发音位置。比如舌前音、舌面音、舌后音、翘舌音等,都可以用一定的手势来表示。以手代舌,学生看着手的形态进行练习,可以取得较好的效果。这是变声音为视觉的一个方法,而且,它不像图式那样固定和死板,可以跟随发音而活动。

指导声调的发音练习,手势更是重要。四个声调,用手势高低分别挥动,让学生跟随手势的高、扬、抑、降,调整自己发音的高低,会有很好的效果,基本上都可以做到声调的准确。这时,手势可以代替声调符号的线条,形象地引导学生发出高低变化的音来。

在朗读课文时,以手势帮助指导,对学生掌握语调和语气也是有帮助的。实际上,不像中国话,除了发音以外,关键在于语言的节奏如何。而节奏的表现,不外乎是高低、强弱、快慢这六个字。在学生朗诵课文时,适当地划分出语句的节奏,分出一些段落,在学生念时以手势带领,也可以帮助学生找到正确的节奏感觉。

#### 5. 对学生发错声音的模仿

初听起来,这样的做法有些特别,其实不然。这也是一种技能教学时经常使用的教授方法。由于发音是一种需要长期练习的技能,所以,发对了一次不等于已经掌握了,经常是对了又错,错了又对。这种现象是每个教师都经验过的。但是,学生有的时候不知道自己发音是错的,也不知道自己发出了什么样的音。这时,教师对学生错误的发音最好能进行模仿,使学生明白自己的发音是什么样的。教师把学生怎样错的再现出来,这样,便于学生马上调整自己的发音。

模仿学生发出的声音最好进行一些语音学的说明,应该指出学生发出的音在舌位图之中处于什么位置,这个音和汉语发音的位置有什么不同和差距。这样的话,会给学生留下较深的印象,改起来容易些。

以上,简单介绍了一些自己在汉语发音教学时所用的方法。其他老师肯定都有很多自己所用的有效方法。在此,仅是抛砖引玉,敬希批评指正。

“汉语桥”(大学生国際中国語コンテスト)をご存じですか? 中国国家对外漢語教學領導小組(漢办)が02年度から始めた催しで、中国語のスピーチ(3分間、テーマ自由)のほかに“中国文化技能”(例えば、中国の音楽、舞踏、演劇、書道、絵画、民間芸術、武術等)の実技、さらに中国に関する常識テストも加わる大会で、第2回の今年度から日本予選も行われることになった。日本では朝日新聞社、日中友好協会等のスピーチ・コンテストが知られているが、このように“表演”まで含むものはない。8月の北京における本選に向け、日中友好協会が6月予選を予定していたが、このほど本選は年末に延期されたという。

## 5月例会の記録 (p. 3から続く) 松本洋子氏報告概要

松本洋子会員は「日本人学習者に中国語の発音を教える際の小さな工夫」というテーマで、ご自身の実践している発音教授法を提示された。まず、教師の姿勢として、初学者の「難しい」と感じる感覚をもっともだと思えることが大切だと説き、重要なことは何回も言う必要があるが、教師が言うだけでは「耳たこ」となって却って逆効果であり、わかりきっていることでも質問形式を採ることが望ましく、正しい知識を損なわない程度に「手がかり」を与えることが役に立つという。手がかりの一例に、音節表のうち、①発音困難、②想起困難と思われる音節を色分けで示すことを提案する。たとえば韻母-ianの音節に一定の色を配し、綴りから実際の発音が想起困難であっても、色の識別から正しい発音を得やすい、という「手がかり」の与え方の具体例を話された。2音節語による声調の組み合わせ練習は、この色分けを加えて制作された掛図を使い、どのようにドリルを行うか実地の説明をされた。また、音節が連続すると初学者は聞き取りの際に音節の切れ目が正しく把握できないとして、切れ目におけるピッチの連続と断絶について指摘をされ、音節の組み合わせ練習掛図での切れ目スラッシュの効用をはじめ、ご体験に基づく種々の工夫を公開された。

今回は参加者からも種々の教学経験が語られ、会員間の交流の重要性が認識できた(輿水記)。

### 新年度会費納入のお願い

昨02年度は会費納入についてご協力ありがとうございました。今回の会報郵送の際振り込み用紙を同封いたしましたので、新年度の会費納入についてご協力をお願い申し上げます。前年度未納の方は2年分一括してお振り込みください。会費の主な用途は、会報、例会案内等の通信費、学会誌編集印刷費、事務経費です。蓄積を得て学会誌の充実と年2回発行を願っています。

なお、旧教育協議会からの会員で未納の会費がある方には別途ご請求しておりますので、ご理解ご協力をお願いいたします。

### 学会誌(中国語教育)について

去る3月の大会の際、学会誌創刊号を刊行することができた。経費節減のため、寄稿者にはフロッピーディスクで原稿提出をお願いしたが、集まってみると組み版不要ともならず、事務局で入力し直しを行った。日本語と中国語で文字の大小が生じて見苦しくなるなど、今後の改善が求められる点も少なくない。ただし今回、印刷費は予定より大幅に少なく、経費節減の目的は達せられた。第2号の原稿募集については、下記の要領を参照されたい。なお、学会誌購入希望の方は、内山書店に販売委託をしたので、同店にお問い合わせいただきたい(頒価1,600円)。

### 学会誌・会報掲載原稿についてのごお願い

学会活動の要(かなめ)である学会誌(中国語教育)の第2号を来春3月に開催予定の大会までに刊行する予定である。応募原稿は400字詰め原稿用紙換算で、50枚以内。中国語学、中国語教育に関する研究論文、資料、論説等。中国語教育の現場での実践報告、調査報告や、書評等も受け付ける。投稿は委嘱原稿を除き、すべて理事若干名による審査で採否を決定する。

原稿の執筆要領(例えば、原稿用紙の字詰め、引用・注釈の記し方、図版の扱い等)は、目下理事有志で草案検討中のため、次号会報(9月発行予定)に詳細を掲載する。

経費節減のため、手書きの原稿は受け付けず、印刷所にそのまま渡せるようにフロッピーディスクでの提出に限る。別に審査用原稿として用紙に印字したものを3部添付していただきたい。ファイルの形式はWindowsで作成されたもの、できればMicrosoft Word文書ファイルが望ましい。中国語はGB、またはBIG5で入力されたもの。締め切りは審査に一定の時間が必要なため、創刊号より早め、2003年12月10日(水)必着で事務局に郵送または宅配便で送付のこと。応募資格は会員に限る。ほかに、下記の原稿は随時受け付けるので、会員各位の積極的な寄稿をお願いしたい。

会報掲載原稿 ①教室での工夫・授業のアイデア ②教学実践記録(教案等も含む) ③国内外の中国語教育・研究関係学会・研究会・シンポジウム紹介 ④外国語教育の分野で新書紹介・書評等。原稿執筆にはワープロ使用を原則とする。字数は1千字前後。採否は事務局の判断による。

なお、学会誌、会報とも投稿はすべて返却しないので、副本をご用意いただきたい。